

兵庫県保険医協会神戸支部 研究会のご案内

# コロナ禍における開業医の役割

～コロナ後遺症とワクチン後遺症の病態にもふれて～

日時 2022年5月26日(木) 17時～19時  
 会場 兵庫県保険医協会5階会議室 (JR・阪神元町駅東口を南へ徒歩8分)  
 講師 医療法人社団裕和会理事長  
 尼崎市・長尾クリニック院長 **長尾 和宏** 先生  
 来場定員 40人(事前申し込み順、Zoomでの配信はありません)  
 参加費 無料

在宅医療のスペシャリストとして、また、映画化もされた「痛くない死に方」をはじめ数多く出版された著書はベストセラーとなり、自らのクリニックには全国から患者が訪れる長尾和宏医師をお招きします。

長尾先生は、新型コロナウイルス感染拡大のなか、地域における開業医の役割について様々なメディアを通じて問題提起、積極的に提言を続けておられます。講演では「コロナ禍における開業医の役割」と題して、尼崎での取り組みとともに、幅広い知見もふまえて、お話いただきます。

1月に予定していましたが、延期となっていた研究会を5月に開催します。会員の先生方はじめ、スタッフの皆さまのご参加もお待ちしております。



### 長尾 和宏(ながお かずひろ)

東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで“人を診る”総合診療を目指す。医学書「スーパー総合医叢書」全10巻の総編集、「平穏死・10の条件」、「薬のやめどき」、「痛くない死に方」はいずれもベストセラー、「糖尿病と膵臓がん」「男の孤独死」、「痛い在宅医」は発売即重版。小説「安楽死特区」は、即重版しアマゾン1位。最新作は「ひとりも、死なさへん」。著書「痛い在宅医」は、令和3年春に映画「痛くない死に方」として公開。併せてドキュメンタリー映画の「けったいな町医者」も公開。日本慢性期医療協会 理事、日本尊厳死協会 副理事長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事。関西国際大学客員教授。医学博士。

\*お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当 島・小西まで

— 【神戸支部研究会参加申し込み】 FAX 返信：078-393-1820 —

参加申し込み

地区 \_\_\_\_\_ 医療機関・施設名 \_\_\_\_\_

代表者お名前 \_\_\_\_\_ 参加人数 \_\_\_\_\_ 人 TEL \_\_\_\_\_

# 兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

354号  
2022年4月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F  
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

診療報酬改定研究会 神戸4会場に1253人

## 診療報酬の大幅引き上げを

▶神戸文化ホールで改定のポイントを解説する(左から)辛龍文評議員、宮武博明支部幹事(24日、医科・神戸会場)



▲オンライン併用で行われた研究会で講師を務めた(右から)田中孝明支部長、加茂統良・武富雅則各支部幹事(26日、医科・神戸会場)



参加者はマーカーを引き熱心に聞きいった(24日、医科・神戸会場)

協会は3月下旬から4月上旬にかけて診療報酬改定研究会を各地で開催、神戸では、医科は3月24日(木)に神戸文化ホール、3月26日(土)に協会会議室と兵庫県農業会館(Zoom併用)で、歯科は3月21日(日)神戸文化ホール、4月3日(日)に協会会議室(Zoom併用)で開催した。医科は2会場に医師、スタッフら978人、歯科は2会場に歯科医師ら514人、合計1492人(オンライン含む)が参加した。

(2面に続く)

(1面の続き)

医科では田中孝明支部長、宮武博明・武富雅則・加茂統良各支部幹事、辛龍文評議員が、歯科では歯科社保講師陣が講師を務め、改定内容のポイントを解説。参加者は、マーカーをひく、付箋を貼るなどして、熱心に耳を傾けた。

研究会の冒頭では協会役員が診療報酬をめぐる情勢について報告。国民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の経営を支える責任が国にはあり、コロナ禍の今こそ診療報酬の「抑制策」は見直すべきこと、コロナ禍での受診抑制が短期的にはもちろん、中長期的にも国民の健康に悪影響を及ぼしていること、世界ではコロナ禍を受けて社会保障費を低く抑える新自由主義的政策が見直されていること等を踏まえ診療報酬の大幅引き上げと患者さんの窓口負担の引き下げが重要だと解説。

参加者に「75歳以上の医療費窓口負担を2割化中止」への署名協力を訴え、神戸会場全体で1184筆が集まった。

参加者はマイナス改定に抗議し、診療報酬を引き上げ、医療従事者の待遇改善を求める決議を拍手で採択した。

## 住民の声聞いて 王子公園・動物園の充実を

神戸市が王子公園の再整備計画として、大学誘致とともに動物園の遊園地やプール・テニスコート・サブグラウンドの廃止等を打ち出したことを受け、王子公園周辺の住民らでつくる「みんなの王子公園&動物園の会」が4月9日、王子動物園前で街頭宣伝を行った。「市民・利用者の合意に基づく再整備とし、大学誘致ありきでなく、動物園の施設改善・拡充を求める」などとした署名への協力を呼びかけ、約1時間半で167筆の署名が集まった。



王子公園前で署名を集める鈴木明彦副支部長(左)

鈴木明彦副支部長が参加し、動物園に来園した親子連れ等通行人に声をかけ、「この間、多数の署名が集まり、徐々に神戸市の姿勢も変わってきている。さらに声を集めて、市に伝えよう」などと署名への協力を訴えた。

### 月刊保団連5月号に同封する署名にご協力を!

同署名は現在までに3万筆超が集まっている。「みんなの王子公園&動物園の会」ではさらに署名を積み上げ、市へ提出する予定。支部の先生方には月刊保団連5月号に署名用紙を同封するので、ぜひご署名の上、返送をお願いしたい。



## 会員投稿

### 映画紹介「誰かの花」

長田区 田中 孝明

今回は横浜から生まれた映画のご紹介をします。

突然ですが、皆様には「忘れたい過去と隠したい今」はありますか?

本作品はそんなテーマをもとに、横浜のミニシアタージャック&ベティ30周年に向けて、製作された映画となります。

監督は長編2作目となる奥田裕介監督。前作『世界を変えなかった不確かな罪』(2017年)はコアな映画ファンを中心に高い評価を受けているそうです。横浜出身の監督ならではの視点で、そこに住まう人と心を真摯に捉え丁寧に描いた物語となっています。

鉄工所で働く孝秋は、薄れゆく記憶の中で徘徊する父・忠義とそんな父に振り回される母・マチのことが気になり、実家の団地を訪れます。しかし忠義は、数年前に死んだ孝秋の兄と区別がつかないのか、彼を見てもただぼんやりと頷くだけ。強風吹き荒れるある日、事故が起こります。

団地のベランダから落ちた植木鉢が住民に直撃し、救急車やパトカーが駆けつける騒動となったのです。父の安否を心配して慌てた孝秋でしたが、忠義は何事もなかったかのように自宅にいました。

だがベランダの窓は開き、忠義の手袋には土が…。一転して父への疑いを募らせていく孝秋。

「誰かの花」をめぐる繰り広げられる偽りと真実の数々。

それらが亡き兄の記憶と交差した時、孝秋が見つけたひとつの〈答え〉とは――。

観る人によって、感じ方が違う映画だと思います。

全国にて順次公開中で、近くでは、神戸の元町映画館で4月29日まで、大阪のシネ・ヌーヴォで5月半ばまで上映しています。

ぜひ、映画館をご覧ください。



(C) 横浜シネマ・ジャック&ベティ30周年企画映画製作委員会